

# 西洋史

授業科目名	授業題目	単位数	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
西洋史概論	ヨーロッパ史における国家 と社会	2	浅岡 善治	3	水曜3限
西洋史概論	古代ローマ帝国史	2	大谷 哲	4	水曜3限
西洋史基礎講読	西洋史研究の基礎	2	浅岡 善治	3	水曜2限
西洋史基礎講読	英語文献精読	2	大谷 哲	3	金曜2限
西洋史基礎講読	西洋史研究の基礎	2	浅岡 善治	4	水曜2限
西洋史基礎講読	英語文献精読	2	大谷 哲	4	金曜2限
西洋史各論	ギリシア神話と歴史学研究	2	大谷 哲	5	月曜3限
西洋史各論	ロシアとウクライナの歴史	2	浅岡 善治	6	水曜3限
西洋史演習	英語文献精読	2	大谷 哲	5	月曜2限
西洋史演習	近代革命の歴史的再検討	2	浅岡 善治	5	木曜2限
西洋史演習	英語文献精読	2	大谷 哲	6	月曜2限
西洋史演習	近代革命の歴史的再検討	2	浅岡 善治	6	木曜2限

**科目名：西洋史概論**

曜日・講時：水曜 3 限

Semester：3 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB33303, 科目ナンバリング：LHM-HIS204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：ヨーロッパ史における国家と社会

2・授業の目的と概要：「国家」と「社会」、およびそれらの相互関係を大きく変化させる「革命」の観点から、ヨーロッパの歴史過程を再検討する。

3. 学習の到達目標：・「国家」と「社会」の観点から、ヨーロッパ史の展開過程を把握する  
・ヨーロッパ史の知見を元に、諸事象を「歴史的に」捉える思考様式を身につける

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに——本講義の趣旨と進め方について
2. 古代地中海世界における国家と社会
3. 中世ヨーロッパにおける国家と社会
4. 近世ヨーロッパにおける国家と社会
5. イギリス革命(1)
6. イギリス革命(2)
7. イギリス革命(3)
8. フランス革命(1)
9. フランス革命(2)
10. フランス革命(3)
11. ロシア革命(1)
12. ロシア革命(2)
13. ロシア革命(3)
14. 現代の革命
15. 総括と展望

5. 成績評価方法：試験：100%。

6. 教科書および参考書：特定のテキストは使用せず、毎回資料を配布する。参考文献としては、初期近代までをほぼカバーするものとして、成瀬治『近代市民社会の成立——社会思想史的考察』東京大学出版会、1984年、をまず挙げておく。その他、授業の進行に合わせて随時紹介する。

7. 授業時間外学習：「概論」につき、講義内容は平易を旨とするが、受講者が何らかの理由で本来備えるべき基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主體的な努力が求められる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

**科目名：西洋史概論**

曜日・講時：水曜 3 限

Semester：4 単位数：2

担当教員：大谷 哲

コード：LB43304, 科目ナンバリング：LHM-HIS204J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：古代ローマ帝国史**

**2. 授業の目的と概要：**受講生はこの授業で、古代ローマ帝国の帝政初期を題材として、歴史学の基礎的な思考法を学ぶ。

**3. 学習の到達目標：**この講義は、学生が帝政初期のローマ政治史・文化史の基礎知識を獲得し、歴史学の基礎的な思考法を理解することを目標とする。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. ガイダンス：授業の概要、形式の解説
2. 皇帝権プロパガンダ
3. ユリウス・クラウディウス朝
4. ネロの死と内乱・フラウィウス朝の成立
5. パンとサーカス、公衆便所
6. 属州支配
7. ダムナティオ・メモリアエ
8. ボンペイ・グラフィティ
9. 史料比較の方法（グループワークを含む）
10. 史料比較の解説
11. 「五賢帝」
12. ローマ社会と奴隷制
13. オリジナル年表の作成（グループワークを含む）
14. オリジナル年表の考察
15. 授業のまとめと試験

**5. 成績評価方法：**各回授業の提出物 [60%]最終回の試験 [40%]

**6. 教科書および参考書：**教科書は指定しない。参考文献として、本村凌二『興亡の世界史 地中海世界とローマ帝国』講談社学術文庫 2017 年を挙げる。そのほかの参考文献は授業内で適宜紹介する。

**7. 授業時間外学習：**ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主體的な努力が求められる。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

回によってグループワークを予定している。

**科目名：西洋史基礎講読**

曜日・講時：水曜 2 限

semester：3 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB33203, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：西洋史研究の基礎
2. 授業の目的と概要：演習形式による文献講読を中心として、西洋史研究に関する入門的指導を行う。
3. 学習の到達目標：専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得。
4. 授業の内容・方法と進度予定：
  - 1 ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
  - 2 歴史学とはいかなる学問か
  - 3 歴史研究と史料(1)
  - 4 歴史研究と史料(2)
  - 5 課題発表(1)a
  - 6 課題発表(1)b
  - 7 課題発表(1)c
  - 8 課題発表(1)d
  - 9 専門論文の読み方(1)
  - 10 専門論文の読み方(2)
  - 11 課題発表(2)a
  - 12 課題発表(2)b
  - 13 課題発表(2)c
  - 14 課題発表(2)d
  - 15 中間的総括
5. 成績評価方法：出席：30%・その他（受講態度、課題の達成度など）：70%
6. 教科書および参考書：資料等は、基本的にプリント形態で配布する。参考文献等は、授業の進行に合わせて随時紹介する。
7. 授業時間外学習：ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。
8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
9. その他：

**科目名：西洋史基礎講読**

曜日・講時：金曜 2 限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：大谷 哲

コード：LB35206, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：英語文献精読**

**2・授業の目的と概要：**この授業は、受講生が英語の文献講読を通じて、専門書・論文を読める英文読解力を身につけると同時に、西洋史研究についても理解を深めることを目的とする。

**3. 学習の到達目標：**この授業の目標は、受講生が英語で書かれた専門的論文の読解力を身につけ、西洋史研究への理解を深めることである。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
2. 試訳の検討と討論 (1)a
3. 試訳の検討と討論 (1)b
4. 試訳の検討と討論 (1)c
5. 試訳の検討と討論 (1)d
6. 試訳の検討と討論 (1)e
7. 小括 (1)
8. 試訳の検討と討論 (2)a
9. 試訳の検討と討論 (2)b
10. 試訳の検討と討論 (2)c
11. 試訳の検討と討論 (2)d
12. 試訳の検討と討論 (2)e
13. 小括 (2)
14. 課題発表
15. 総括

**5. 成績評価方法：**各回の課題 [60%], 小括・総括での提出物 [30%], 発表[10%]

**6. 教科書および参考書：**Helen Morales, Classical Mythology: A Very Short Introduction, Oxford UP, 2007 を教科書として、必要な箇所のコピーを配布する。参考文献は授業内で適宜紹介する。

**7. 授業時間外学習：**受講生は毎回の授業で、指定された範囲の試訳・修正訳および専門用語等の調査シートを準備・提出する。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

**科目名：西洋史基礎講読**

曜日・講時：水曜 2 限

Semester：4 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB43202, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：西洋史研究の基礎**

**2・授業の目的と概要：**演習形式による文献講読を中心として、西洋史研究に関する入門的指導を行う。使用言語/テキストは主に日本語とする。

**3. 学習の到達目標：**専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 夏季課題発表(1)
2. 夏季課題発表(2)
3. 資料・文献の探し方
4. 課題発表(1)a
5. 課題発表(1)b
6. 課題発表(1)c
7. 課題発表(1)d
8. 学术论文の作法(1)
9. 学术论文の作法(2)
10. 課題発表(2)a
11. 課題発表(2)b
12. 課題発表(2)c
13. 課題発表(2)d
14. 総括に向けて
15. 総括

**5. 成績評価方法：**出席：30%・その他（受講態度、課題の達成度など）：70%

**6. 教科書および参考書：**資料等は基本的にプリント形態で配布する。参考文献等は授業の進行に合わせて随時紹介する。

**7. 授業時間外学習：**ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

後期の講読は、前期からの継続的受講を前提としている。

**科目名：西洋史基礎講読**

曜日・講時：金曜 2 限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：大谷 哲

コード：LB45202, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：英語文献精読**

**2・授業の目的と概要：**この授業は、受講生が英語の文献講読を通じて、専門書・論文を読める英文読解力を身につけると同時に、西洋史研究についても理解を深めることを目的とする。

**3. 学習の到達目標：**この授業の目標は、受講生が英語で書かれた専門的論文の読解力を身につけ、西洋史研究への理解を深めることである。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
2. 試訳の検討と討論 (1)a
3. 試訳の検討と討論 (1)b
4. 試訳の検討と討論 (1)c
5. 試訳の検討と討論 (1)d
6. 試訳の検討と討論 (1)e
7. 小括 (1)
8. 試訳の検討と討論 (2)a
9. 試訳の検討と討論 (2)b
10. 試訳の検討と討論 (2)c
11. 試訳の検討と討論 (2)d
12. 試訳の検討と討論 (2)e
13. 小括 (2)
14. 課題発表
15. 総括

**5. 成績評価方法：**各回の課題 [60%], 小括・総括での提出物 [30%], 発表[10%]

**6. 教科書および参考書：**Helen Morales, Classical Mythology: A Very Short Introduction, Oxford UP, 2007 を教科書として、必要な箇所のコピーを配布する。参考文献は授業内で適宜紹介する。

**7. 授業時間外学習：**受講生は毎回の授業で、指定された範囲の試訳・修正訳および専門用語等の調査シートを準備・提出する。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

科目名：西洋史各論

曜日・講時：月曜3限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：大谷 哲

コード：LB51304, 科目ナンバリング：LHM-HIS305J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：ギリシア神話と歴史学研究

2. 授業の目的と概要：この授業は古代ギリシアおよびローマ時代を中心に、いわゆるギリシア神話の分析を講義する。

3. 学習の到達目標：この授業では古代ギリシア神話の分析方法に関する講義を題材として、受講生が西洋史研究の技法を理解することを目標とする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：ガイダンス(授業の方針と形式、成績評価方法等)
- 第2回：例えばアトランティス大陸とは何か - 伝説と史料の読み方
- 第3回：ギリシア神話を把握する - 神々の語られ方
- 第4回：ホメロスの世界 - 叙事詩と社会
- 第5回：贈り物は神々をも説得する - 互酬とギリシア社会
- 第6回：社会の切り取り方 - 賄賂とギリシア・ローマ社会
- 第7回：パンドラの贈り物
- 第8回：do ut des の思考法
- 第9回：神話の伝播と文化受容
- 第10回：王様の耳はロバの耳と神話伝播
- 第11回：エウロパの誘拐
- 第12回：走れメロスの走った道
- 第13回：古代ギリシアの人間と死
- 第14回：古代オリンピックと神話
- 第15回：まとめと確認のための試験

5. 成績評価方法：毎回の授業での課題提出[60%]，期末試験 [40%]

6. 教科書および参考書：教科書は指定しない。参考文献として M. I. フィンリー著 下田立行訳『オデュッセウスの世界』岩波文庫 1994 年を挙げる。その他の参考文献は授業内で紹介する。

7. 授業時間外学習：ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：西洋史各論

曜日・講時：水曜3限

semester：6 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB63308, 科目ナンバリング：LHM-HIS305J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：ロシアとウクライナの歴史

2. 授業の目的と概要：2022年に始まったロシアとウクライナの戦争は、いまだ終わりが見えない。神ならぬ我々が未来を展望するには、過去に沈潜して事態の経緯を改めて確認し、そこから少しでも「この先を照らす」努力を続ける他ない。本講義は、そのようなささやかな試みの1つである。

3. 学習の到達目標：・ロシアとウクライナの相互関係史の展開過程を把握する  
・ロシア・ウクライナ史の知見を元に、諸事象を「歴史的に」捉える思考様式を身につける

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに—本講義の趣旨と進め方について
2. キエフ・ルーシ
3. 「タタールのくびき」
4. ポーランドとリトアニア
5. ツァーリとカザーク
6. 「大ロシア」・「小ロシア」・「新ロシア」
7. 大改革
8. ナショナリズムと世界戦争
9. ロシア革命とウクライナ革命
10. 「自由な共和国の分てぬ同盟」
11. スターリン体制と「ホロドモール」
12. 独ソ戦
13. 後期ソ連体制とウクライナ
14. ソ連解体とその後
15. 総括と展望

5. 成績評価方法：試験：100%

6. 教科書および参考書：全体をカバーする参考図書として、黛秋津編『講義 ウクライナの歴史』山川出版社、2023年；セルヒー・プロヒー『ウクライナ全史』上・下、鶴見太郎監訳、明石書店、2024年、の2冊を一先ず挙げておく。その他、授業の進行に合わせて随時紹介する。

7. 授業時間外学習：講義内容は平易を旨とするが、受講者が何らかの理由で本来備えるべき基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

**科目名：西洋史演習**

**曜日・講時：**月曜2限

**セメスター：**5 **単位数：**2

**担当教員：**大谷 哲

**コード：**LB51208, **科目ナンバリング：**LHM-HIS312J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**英語文献精読

**2・授業の目的と概要：**この授業は、受講生が英語の文献講読を通じて、専門書・論文を読める仏文読解力を身につけると同時に、西洋史研究についても理解を深めることを目的とする。

**3. 学習の到達目標：**この授業の目標は、受講生が英語で書かれた専門的論文の読解力を身につけ、西洋史研究への理解を深めることである。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
2. 試訳の検討と討論(1)a
3. 試訳の検討と討論(1)b
4. 試訳の検討と討論(1)c
5. 試訳の検討と討論(1)d
6. 試訳の検討と討論(1)e
7. 小括(1)
8. 試訳の検討と討論(2)a
9. 試訳の検討と討論(2)b
10. 試訳の検討と討論(2)c
11. 試訳の検討と討論(2)d
12. 試訳の検討と討論(2)e
13. 小括(2)
14. 課題発表
15. 総括

**5. 成績評価方法：**各回の課題 [60%]、小括・総括での提出物 [30%], 発表[10%]

**6. 教科書および参考書：**Christopher B. Krebs, A Most Dangerous Book: Tacitus's Germania from the Roman Empire to the Third Reich, New York, W. W. Norton & Company, 2011 を教科書として、必要な箇所のコピーを配布する。参考文献は授業内で適宜紹介する。

**7. 授業時間外学習：**受講生は毎回の授業で、指定された範囲の試訳・修正訳および専門用語等の調査シートを準備・提出する。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

**科目名：西洋史演習**

曜日・講時：木曜 2 限

semester：5 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB54208, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：近代革命の歴史的再検討

2. 授業の目的と概要：演習形式による英語文献講読を中心として、西洋史研究に関する基本的指導を行う。

3. 学習の到達目標：専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および英語文献の正確な読解。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
2. 試訳の検討と討論 (1)a
3. 試訳の検討と討論 (1)b
4. 試訳の検討と討論 (1)c
5. 試訳の検討と討論 (1)d
6. 試訳の検討と討論 (1)e
7. 小括 (1)
8. 試訳の検討と討論 (2)a
9. 試訳の検討と討論 (2)b
10. 試訳の検討と討論 (2)c
11. 試訳の検討と討論 (2)d
12. 試訳の検討と討論 (2)e
13. 小括 (2)
14. 課題発表
15. 総括

5. 成績評価方法：出席：30%・その他(受講態度、課題の達成度など)：70%

6. 教科書および参考書：開講後発表。

7. 授業時間外学習：ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主體的な努力が求められる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

**科目名：西洋史演習**

**曜日・講時：**月曜2限

**セメスター：**6 **単位数：**2

**担当教員：**大谷 哲

**コード：**LB61207, **科目ナンバリング：**LHM-HIS312J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**英語文献精読

**2・授業の目的と概要：**この授業は、受講生が英語の文献講読を通じて、専門書・論文を読める仏文読解力を身につけると同時に、西洋史研究についても理解を深めることを目的とする。

**3. 学習の到達目標：**この授業の目標は、受講生が英語で書かれた専門的論文の読解力を身につけ、西洋史研究への理解を深めることである。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
2. 試訳の検討と討論(1)a
3. 試訳の検討と討論(1)b
4. 試訳の検討と討論(1)c
5. 試訳の検討と討論(1)d
6. 試訳の検討と討論(1)e
7. 小括(1)
8. 試訳の検討と討論(2)a
9. 試訳の検討と討論(2)b
10. 試訳の検討と討論(2)c
11. 試訳の検討と討論(2)d
12. 試訳の検討と討論(2)e
13. 小括(2)
14. 課題発表
15. 総括

**5. 成績評価方法：**各回の課題 [60%]、小括・総括での提出物 [30%]、発表[10%]

**6. 教科書および参考書：**Christopher B. Krebs, A Most Dangerous Book: Tacitus's Germania from the Roman Empire to the Third Reich, New York, W. W. Norton & Company, 2011を教科書として、必要な箇所のコピーを配布する。参考文献は授業内で適宜紹介する。

**7. 授業時間外学習：**受講生は毎回の授業で、指定された範囲の試訳・修正訳および専門用語等の調査シートを準備・提出する。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

**科目名：西洋史演習**

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB64207, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：近代革命の歴史的再検討

2. 授業の目的と概要：演習形式による英語文献講読を中心として、西洋史研究に関する基本的指導を行う。

3. 学習の到達目標：専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および英語文献の正確な読解。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
2. 試訳の検討と討論 (1)a
3. 試訳の検討と討論 (1)b
4. 試訳の検討と討論 (1)c
5. 試訳の検討と討論 (1)d
6. 試訳の検討と討論 (1)e
7. 小括 (1)
8. 試訳の検討と討論 (2)a
9. 試訳の検討と討論 (2)b
10. 試訳の検討と討論 (2)c
11. 試訳の検討と討論 (2)d
12. 試訳の検討と討論 (2)e
13. 小括 (2)
14. 課題発表
15. 総括

5. 成績評価方法：出席：30%・その他(受講態度、課題の達成度など)：70%

6. 教科書および参考書：開講後発表。

7. 授業時間外学習：ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

後期の演習は、前期からの継続的受講を前提としている。